

上尾歴史散歩

243 上尾の古い地名をこう

■ゆるぎ橋より鴨川を南下する

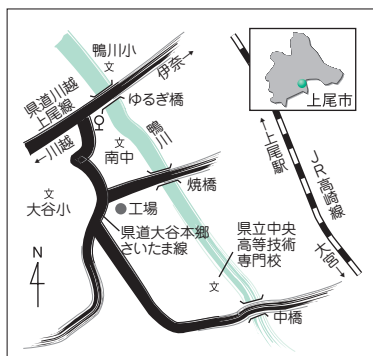
「ぐるっとくん」を「南中学校入口」で下車すると、三メートル東にゆるぎ橋が見える。この橋は古くは「緩木橋」と記されているが、橋より鴨川の右岸道を南下してみる。二百メートルも歩くと右手は南中学校の校地となるが、川の東側はさいたま市北区别所町で、こちらも川沿いに住宅が密集し、かつて広がっていた水田は全く見られない。現在鴨川左岸はさいたま市で、行政上の区域は分かれているが、江戸時代には対岸の別所村・奈良瀬戸村(現さいたま市北区)は向山などとともに「大谷領」である。これを見るとかつての大谷領は、鴨川を挟んで南北に細長く形成されていたことになる(『新編武蔵風土記稿』)。



鴨川に架かる中橋。奥に見えるのが斜面林

い適地に領主も意を用いたこととなる。緩木橋以南は古地図の上では水田が広く分布するが、現在は住宅地化してわずかに残るのみである(『上尾市史第三巻』)。

南中学校校地の東南端から二百二十メートルも歩くと、「焼橋」と出合う。大変珍しい橋名であるが、この橋は上尾市側の大谷本郷とさいたま市側の別所町をつなぐ橋である。焼橋から三百八十メートルも下ると、対岸のさいたま市側には別所橋がある。この辺りで、上尾市域は大谷本郷・中新井境を流れる悪水路が鴨川に注いでおり、対岸のさいたま市側では北流の「鴻沼川」が流入している。この川は鴨川とは反対方向から流下している(『逆川』であり、二



つの小さな川の流入口がある特徴の地形を形成している。鴻沼川の流入口より南側は、さいたま市奈良町と新町名が付されている(『国土地理院地形図』)。

対岸の別所橋付近から八百メートルも歩くと、「中橋」と出合う。上尾市域の戸崎から、さいたま市側の奈良町を結ぶ橋である。この辺りは鴨川の形成する低地帯が広くなっているわけではないが、台地の縁辺が構成する斜面林は実に見事である。この中橋は、さいたま市中釘の「秋葉社」への参詣道であり、沿道には道路標示の庚申塔も見られる。これを見ると中橋は秋葉道の街道に当たり、往時は主要街道の一つに当たるといふことになる(『上尾市地形図』)。

(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

市の人口・世帯

(平成23年5月1日現在)

22万7,212人

男/11万3,560人

女/11万3,652人

※前月より2人減。

9万2,714世帯



○に入る文字や数字を当ててください。

■携帯電話やパソコンで情報を受信できる○○○マガジンが開始されました。

(ヒントは11ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、6月21日(火)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は7月号のこのコーナーで。前号の答えは「創」でした。ご応募ありがとうございました(応募者42人)。

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。



本紙は、再生紙を使用しております。